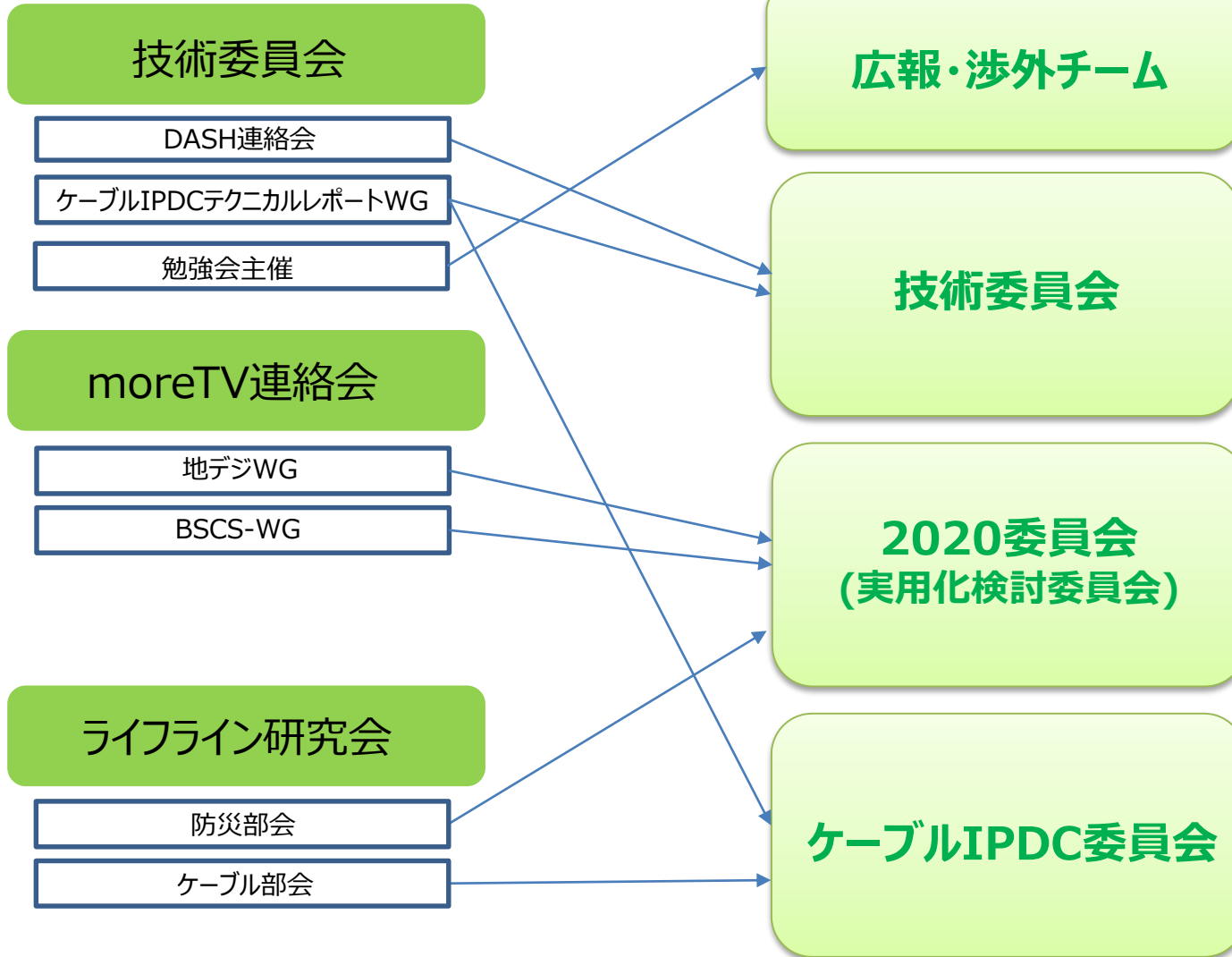


## 2017年度

## 2018年度

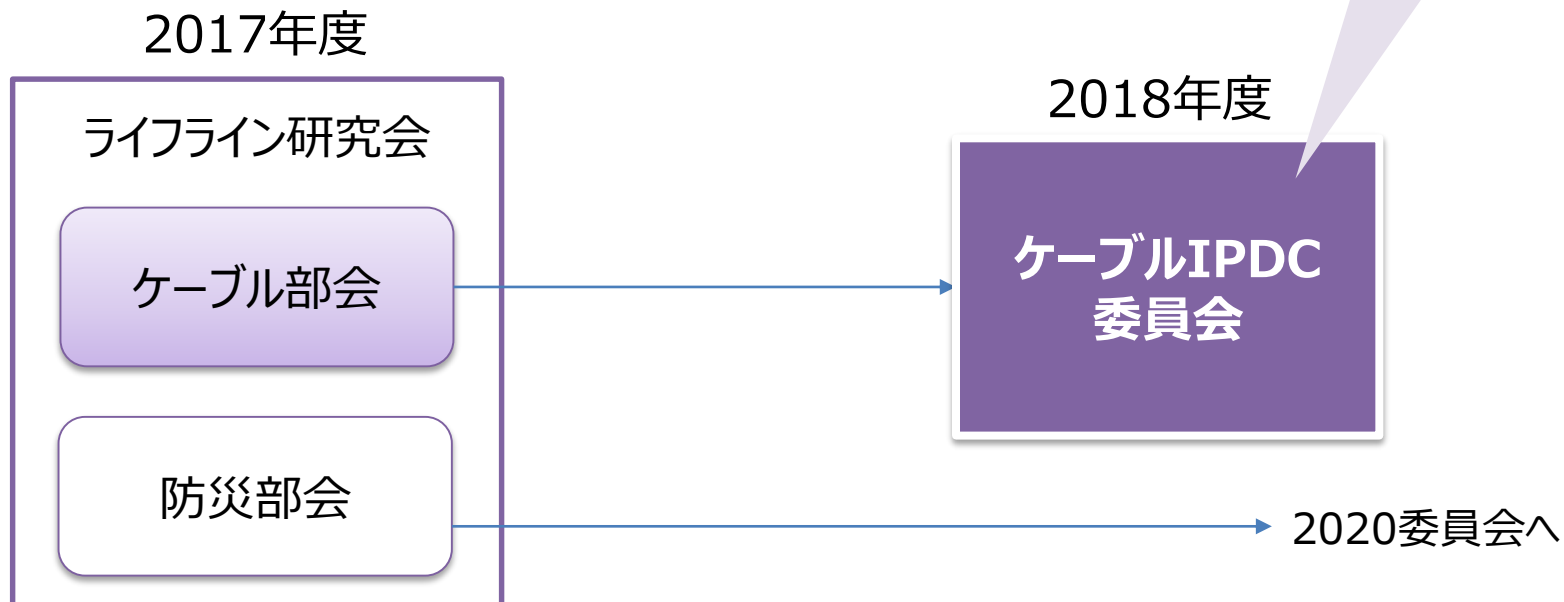
### 【主な活動内容】



- 渉外的な広報活動など
- 勉強会や見学会の主催
  
- 規格化や技術的なルール作り等が必要なテーマについて順次WGを設置し検討
- テーマ例
  - ・IP放送WG ・IoT放送WG
- Adhoc的なりサーチ活動など
  
- オリ・パラの開催される2020年をにらみ、これまでの活動(moreTV連絡会やライフライン研究会)成果の具現化、実用化を目指す
- テーマ例
  - ・多言語放送、・BeaconCast
  - ・多チャンネル検索
  
- ケーブル分野でのIPDC化を促進するべく、規格化への協力や各種普及活動を行う
- ケーブル技術ショーなどの開催

- ケーブル分野のFTTH化はまだ遅れている部分もあり、HFC※をベースとしたRFタイプも依然として多く残されている。昨年度、技術委員会の協力を得て取り纏めたテクニカルレポートをもとに、ケーブル分野でのIPDCの利活用を促進すべく、引き続き関係機関との連携を強めたり、ケーブル事業者による実証実験などに協力していく。
- 特にケーブルラボでは今期にIPDCの規格化がテーマに上がっているとのこと、必要によりこの取り組みに技術的に協力していくこととしている。
- また、ケーブル技術協会からの要請により、一昨年、昨年と続いて、ケーブル技術ショー※へ出展参加することとし、防災分野や4K再送信に関するIPDCの有用性を引き続き訴求していく。

HFC : Hybrid fiber-coaxial ケーブルテレビの配線方式の一種。  
 ケーブル技術ショー2018 : 2018年7月19日(木)、20日(金)



東京オリンピック・パラリンピックの開催される2年後に向け、ICT分野でさまざまな取り組みが国レベルで加速する中で、当フォーラムでもこれまでの成果や、実績を積極的にアピールし、実用化への可能性を探る。

- ・moreTV連絡会の成果を受け、2020を意識した新しい視聴体験の創出→多言語放送の可能性
- ・ライフライン研究会防災部会の成果を受け、同じくインバウンド需要等を意識し、モバイル向け多言語の情報プッシュ方式の確立→BeaconCastを活用した多言語サイネージ等の検討
- ・両者において、NICTの多言語機械翻訳との連携を図る
- ・多チャンネル系サービスの新しいタッチポイントとしての検索サイトの有用性を具体的にフィールドで検証を行う



- ・技術的な新テーマをAdhoc的に取り上げ進化させたり、規格化や技術的なルール作り等が必要なテーマについて順次WGを設置し検討を行う
- ・直近では、昨年度から継続中のDASH連絡会での予備検討を受けて、IP方式での各課題の検討、実証実験の推進などを行っていく→IP放送WG
- ・V-High跡地活用も含めIoT分野でのIPDC活用の動きを支援していく→IoT放送WG
- ・渉外面での動き（勉強会や見学会、成果披露会など）については、広報・渉外チームを新設し、そこで一元化する

